明治二十年八月五日刊行

每月一回發行
壹冊正價廿錢
全國無郵送稅

通信女學講義錄

第參卷

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

文章諸體式は始より有しにあらず文章先づありて體式後に出づ

諸文體式の出るは當然の理なり

古文章はおのづから後世の諸文體式にかなへり

○文學一斑（第三回）

文章の體式

文章ハ期にふれ事にあたりて只その言語のまゝをうつし出べきものなれバ支那も西洋も本邦も最始より文の體式などあるべき樣なし。されどその期にふれ事にあたりて書きたゝむるが故にその體をまた同じからずして各種に殊なるハ當然とやいはまし。故支那にまれ西洋にまれおの〳〵文章の體式あるゆゑにして本邦なるも近古の時代まで繁たく何くれと文體に稱こそ分たね實際ハ古き書籍どもにもその體式ハおのづから備はりたり。古風土記あるひハ古事記などの中なる古傳説を記し、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

源氏一部の内に諸文體式を備へたり

個所〻〻には紀事文の體式に合へるがおほく。古事記の大國主神の條などは傳の文體に正しく當れるなるべし。又かの祝詞のごときは論なう祝文體式なり（こゝに祝文といへるは漢文の體式によりて稱を借たるにて學校開き或は卒業式等に用ゐるとは異なり饗神の詞をいふ）これらはたゞ試みに古き書につきて二つ三つ思ひうかべるまゝを揭げしなるが詳細に探りもとめなば諸文體式に當べきをかぞ〳〵見出ること有めり。中古となさの書にはその數いと多く源氏のごとき長篇にいたりては一部の中に紀事、議論、解釋、書簡、等の文體式をこめたり。帚木の卷なる雨夜の品定の上段女の品その心ざまを論ふひ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文章を學ぶにハ上古の文よりは中古以來の佳なるものを撰びて法とするを可とす

漢文には記、志、紀事、傳、狀、序、引、小序、論、辨、議、解、釋、說、表、辭、賦、書、祝文、祭文、題跋、評、原、述、頌、

たるところ中段三つの譬をわけて人の眞僞をいへる所などハ即ち議論の文躰式にして下段を各自むかし有つることを語りあふ件ハやがて紀事文躰式とこそいふべけれ。さて文章まなぶ式にハ餘りに古きよりハ反て中古こなたの文を學びて益あるぞ多かる。されバ中古以來の書ども何くれと取いで時代にも關らず只その躰式をも當てぬべく初學をも便よかりぬべしと想へるを擧こるして文まなぶ心得の料とぞなさまし。斯て諸文躰の稱ハ以前より漢文をものせるを用ゐるぞ可けん。然ハあれど其躰式の數こちたきまでを多かれバ悉くハ採用ゐず。彼にハみな用ありぬべけれど我をハさまで用ありけ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

銘、箴、等の稱ありその中には稱異なれど全く同種のものも多し

に思それぞればかり此には紀事、序跋、論說、解釋、尺牘、等の五を出してその文躰式の大畧をさとすべし。此の五躰をわきまへ其條ごとに名をわかそしたる書どもを讀あぢそひつゝ文作るならそゞ大概は何事にまれその意ふがまゝに易々とかきうる樣になるものぞかし

紀事文躰式

其第一種事實

紀事　此の文躰はさま／＼にて一樣ならず。或は古へ今のありし事實を記すあり。大鏡(藤原爲業の著なり。文徳帝より後一條帝まで十四代百七十年間の帝王大臣の事をしるす。一に世繼の翁ともいふ)榮花物語(赤染衛門の作といひ傳れど其文中に紫式部の日記をそのまゝ書寫し、所あり且時代もやゝ後に及びたれば然らじといへ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る人あり理と覺ゆ。書中の記事ハ宇多帝の寛平年中より堀河院の寛治六年におよふ)平家物語(こハ謠ひものに作れるが故ならん詞づかひも優にして他の軍書の類にあらず。保元平治物語、源平盛衰記などハ軍書の中にてハ勝れしものなれど文章の式にハとり難し)の類をその例として文躰の式をとらバよからん」或ハ事實ならねど眞しやうに作りなして當時の人情風俗をうつせるもあり打つけに言出んハ憚りあれバ物に託して意を寓したるもあり。竹取物語、宇津保物語、伊勢物語、落久保物語(源順の作といふ說あれど確かならず。物語の趣きハ昔し中納言なる人女あまた有たるがその中に異母の女ありけるを繼

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

母いたく憎みて子達の數にいれず之を寢殿の放出のまた一間なる落くぼなる所にれきて落くぼの君といへとまでものせしが此むすめ藏人の少將に戀はれて末々榮えゆきし事をかけり。ある人の說に貞信公の公達のことを他事に託して記しゝなりと云り）大和物語、源氏物語などおの〳〵其趣もかはり其躰も同じからねど皆つくり物語の式例とならざるハなし」或ハ山水の名勝を記すあり古跡を弔ひて懷舊の情を叙るあり。旅の道行ぶりを記すあり。四季をり〳〵の景色など打見るまゝを記すもあり。土佐日記、十六夜記（阿佛尼の記行なり。尼ハ安嘉門院の四條とて爲家卿の後妻なるが卿の沒後に爲相、爲氏兄弟 六

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

早蕨その他こゝの分注なるは源氏の卷ゝの名なり七丁十七丁とあるは其卷の七枚目十七枚目といはんが如し

にて播州細川の庄を爭論せられしとき訴訟のために鎌倉へ下られしときに作れるなり)藤川の記(一條禪閤兼好公が應仁の亂を避て南都に住まれしころ美濃の國へ行たりし時の道の記なり)回國雜記(此を宗祇回國記とも號くれど大なる謬なり。此の記は准后道興親王の作なることは文中を考へて知るべしと或人いへり。實に然るべく思ゆる)この類は記行または名勝の記などの文躰式となりぬべし。また源氏の中には四時の景色おかしく叙たるが多く見え(早蕨丁七初音丁十七竹川丁九若紫丁四椎本丁四蓬生丁廿三須磨丁卅四少女丁五十野分丁二)懷舊の情をあはれに記しゝも此彼に見ゆ(桐壺丁九賢木丁卅七幻丁廿二竹川丁四十一)枕草子の初めなる「春はあ

其第四種
志傳

けぼのやう〳〵しろくなりゆく。山ぎはすこしあかりて紫だちたる雲のほそく棚引たる云々といへる詞のさま美はしくして甚めでたし。何れも文章の良師とこそいはめ」或ハ人の言行をしるし善悪の事跡をのべて褒もし貶しもし文にのこして世に傳ふるあり。法王帝説。假名太子傳、西行物語、兩聖記（藤原長親卿の著にして扶桑拾葉集に載られたり。兩聖とハ菅原道實公と無準禪師とをさして云るなり）唐物語（世に西行法師の著なりといひ傳ふれど確ならず。小傳めきたるものにて文章の詞ざまも然まで卑しからねバ式とするに足れり）これらの書ハみな志傳の躰式を見るに便となりぬべし」紀事の躰式の種を

八

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

序跋文躰式

序の解

跋の解

古今集序以下みな枎桑拾葉集に收む

分ち擧なバ尙れはかれと餘りにくだくしくいはず

序跋　尙書註疏の毛傳に序ハ緒なり其事を述べ理をして相胤續せしむ繭の緒を抽が若し」といへる義にしあれバ己が記しヽ書にまれ人の著ハしヽ書にまれ其書の大意を簡やかに提げいだすもあり。其書の成たる所由を叙てその主旨を知しむるもあり。跋ハ足後なり故に書の文字の後を跋といへり」と或る漢籍に見えたるこの義にて書の後にそふるものなり。文躰ハ大畧ハ異ならず。たヾ序ハ書の首にありて其書に就ての事がらを叙べ跋ハ終にありて其書の情況をしるし而して全篇を具備せしむるなり貫之が古今和歌集の序ならびに大井川行幸和

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

歌集の序これらハ和文の序文の濫觴とやいはん。これより後ハ新古今和歌集の序(藤原良經)風雅和歌集の序(花園天皇)など甚おほし。跋にハ清少納言が枕草子の跋を首とし住吉歌合の跋(藤原俊成)顯注密勘の跋(後鳥羽天皇)百首和歌の跋(釋慈圓)これらの他にも其數すくなからず何れも序跋の文躰式とすべし

〇正誤　第一號三二頁文章の種類祀詞文は祝詞文
第二號一〇頁の附言五行變遷の傍訓かわりうつりはかはりうつり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○育兒心得　（第三回）

問。産衣の事は畧は承はり候が彼の帽子頭巾の如き類は、矢張り赤子にも用ひて宜しきものに候や。

答。之は元來用ひざる方が宜しきとあれども兎角習慣と相成居るより、多く御用ひの方も見ゆるとあり兎角赤子の頭は、冷やさして置くが、健康に宜しきものゆへ、一体斯る者を冠らするハ、全く不要の事なれども、若し何かの都合にて、既に用ひ初めたらバ、夏は初の一ヶ月丈け、冬は亦た初の二三ヶ月丈にて、之を止め申すべし。但し是迄冠らせたるを、斯して中止さるゝときは、能く其用心して、追々に薄きものを用ひ乍ら、遂に全く之を廢するやうに致

赤子の頭を剃る事

さるべし、然し可成は、最初より、御用なき様に心得らるゝを善しとす、只但手數の掛るのみか、時々はこの冠物を冠らざるより、直ちに風を引くなどの心配あり、初より始終用ひ來らざれバ、決して斯る患はなきものに候、尙又晝の間は、之を用ひずして、夜る丈け御用ひの方もあるとなるが、之亦た全く不用なるのみか、矢張り多少の害を引起すべき因緣と相成り、一も利益とてハ候まじ、故に何れにしても、初より御用ひなき方よろしからんと存候。

問。赤子の頭を剃るとは、別段差しつかへ無之ものに候や承ハり置度候。

答。之は、我國にて、久しく行ひ來れる習ハせには候へど

二三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

も、甚だ有害にして無益なるものに候、元來胎内に在りたる時よりして既に斯く毛を生やし居ると云ふは、必竟その赤子の爲に無くてならぬものに相違無御座、造化が赤子の頭を保護せんとて、最初より御植附なされたるものにてもあるべし、然るに、生れ出でゝ、まだ頭の皮も硬まらざる内に、鋭き頭剃にて痛くも之を剃り去るときは、眞に慘刻の行なるのみか、造化の保護に對しても眞に申別なき儀なり、思ふに、之は、胎内に在りて、色々の不淨を受けたる頭の毛ゆへ、全く剃り落して、新なるを生やさするが宜しとの考より、爲し初めたるものならんが、若し胎内の氣を受けたるを不淨と致さバ、何も髪の毛のみにハ限り申

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

何日目より乳を飮ますべきやの事

さぞ、全躰の皮膚悉く同樣にこの不淨を受たるにて候ハん、左らバとて、此皮膚は、剃り落すとも出來ず、又何とも思ハずして居乍ら、髮の毛のみを斯く彼此と申すハ、必竟一の迷ゐにて候ふべし、然し其儘に生やさせたる髮の毛は二ヶ月目、又冬ならバ三ヶ月目ほどにて程好く短かう切らるべし、左あらバ衛生上に取りて一の害なくして、反つて躰の爲に宜しからんと存候。

問。赤子に乳を飮ますするは、何日目より始むべきものに候や。

答。從來は先づ赤子にマクリを飮ませ、大抵三日目又は一と週りの後より初て乳を含ますするものなりしが、抑も

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

此のマクリは、何の効能あるものにや、甚だ疑はしきものなり、凡そ造化の準備は實に至れり盡せりと申すべき程のものにて、母親の乳房より出る最初の乳は、即ち赤子にとりて、甚だ効能ある藥と相成るべきものを含み居るものなれバ、何も、別段かゝるマクリ樣のものを用ゆるに及バぞ、早速母親の乳を飮まするがよろしく候、故に西洋醫者は、赤子を直ちに母親に抱かせ、乳房を含ますると好しと致し、外國人も多くその樣に實行するものなれども、何分我國の產婦ハ疲勞太甚しく、兎ても直ちに赤子を抱くと申すように參らざる所もあらんが、成べく早く之を抱いて、乳を飮ますするように爲るを宜しきとと存ぞ、尤も

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

餘り早ければ、乳も出でず、何の効能もなきように思ハるゝからんが、例令ひ乳は出でざるとも、第一、赤子をして吸ハしむれバ乳の出づる途を早く開くの効あり、第二、赤子をして乳を吸ふの習慣に熟せしむるの徳あるゆへに、左樣致さるゝが宜しからん。又最初己の子に人の乳を飲ませ、自分の乳を人の子に飲ますれバ、其効少からずなど云ふものあり、之は甚しき誤にて、決して爲すまじき事なり、前にも申す如く造化の取扱にて、親子の間に恰も適當したるようの處置が倶ハり居るとゆへ、矢張り其母親の乳を飲まする方が、その子の躰の爲になるものなり。

問。　然らバ、母親の乳の出でざる間は何如なるものを赤

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

子に與へて可然候や。

答。左樣、先づ、產後十二時間が程ハ、別段何も與へずとて、苦しからず候、其内に、母の乳汁が出で候ハヾ御飮ませあるべし、若尙は出でざるならバ、新鮮の牛乳三分と温湯に棒砂糖少々く加へたるものを(尙はカニバヽの出でざる内ならバ、天紅又は黑砂糖などを用ゆるを宜とす)六分ほど合せて、二時間目に少々くづヽ與ふべし、尤もすでに母の乳が出候ハヾ、直ちに之を止め、矢張り二時間をきにしてかハるぐ一方の乳房を含ましむべし。

母親の乳の外に用ゆべき食料の事

問。然し赤子ハ時々く乳房を含むとを嫌ふともあるものに候が、その樣なる節ハ、何如いたすべきものに候や。

乳を飮むとを嫌ふ時の事

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

交る乳房を含ま
するゆゑんの事

答。斯る時ハ早速醫師を招いて診察を請ハるべし、大抵は赤子の舌が結ばれ居て乳を吸いにくきゆへにて候若し然らバ、一寸とした治療にて、直ちに療ゆるものなれども、万一其儘に放置せバ大層の害を起すこともあるものに候ぞ。

問。先刻かゝる〳〵一方の乳房を含ませよと仰せありしが、之ハ、何如なる必要のあるものに候や。

答。左様、この事は、甚だ大切のものに候、赤子は、時として、たゞ左又は右の一方の乳房にのみ取つくとのあるものに候が若しも之を其儘にして構ひ申さねば一方の乳は、非常に減じて、而も養分少く、亦たもう一つの乳房は乳汁

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

時刻を定て乳を飲ます事

に餘りて、遂に腐敗するとこれあるべし、故に、四時間ごとに、一度づゝ乳を含ますると定めたらバ、之をかわる〴〵に飲ませ、即ち一方の乳房を、丁度八時間目ごとに吸ハすると申すように御定めありて、宜しからんと存候。

問。何時間目に一度づゝ乳を含ますると申して、大層不都合の事あらんかと思ハれ候が、何如のものにや承ハり置度候。

答。尤の御不審なるが、我國從來の母親方は、其子に乳を飲まするの定め、甚だ不規則にて、爲に子供の身躰を害すると少からぬものに候へバ、どうぞ其樣なる亂暴ハ一日も早く止めさせたしと兼々心配する所に候、凡そ乳を出

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

二〇

す所の母親にしても、亦た之を飲む所の子供の身に取りても、時刻も定めず、勝手氣儘に致すならバ、之よりして胃病を起し、又は躰を大に疲らすべきと、眞に一見して明なる次第に候、特に子供は、余り乳を飲過たる爲に、腹を痛めて快よからざるより、時々は叫び泣くともあるものなれども、其泣くときハ何事によりて泣くかに關ハらず、直ちに乳を含ませ、乳房をはう張らせて、強て其泣を止むると云ふと、眞に以て言語同斷の至り、之を例ふれバ、丁度火を消さんとして、薪を投げ入るゝと同様なる愚を致すものと思ハれ候、故に、最初より乳を飲まする時間を固く定め置き、其外に於てハ、決して之を飲ませざるように致さバ、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

何時間目と定むべきやの事

暫時にして、子供も之に慣るゝように相成り申さん、然るときハ、第一子供の躰の爲めに宜しく、第二手間が省けて万事に都合よろしく、第三には隨つて子供の眼る時刻まで規則正しく相成るように至るべし、ゆへに、くれ〴〵も用心して、天の規則を破らざるよう爲されたきものなり。

問。 能く瞭解いたし候が、夫にしても四時間目に一度とは、餘り時間が掛け離れたるやと思ハれ候、何如のものにや、之も承知いたし度候。

答。 左樣にて候、前に四時間目と申したるハ、餘程赤子が生ひ立ちての後の事なれバ、其前段のお話には、二時間目にと申したる次第に候が、先づ產後一ケ月程のうちは、大

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

抵一時間半毎と定め、同上二ヶ月程の内は、二時間目と定め、夫れより次第々々に間を増して、遂に四時間目と定るように致さバ、宜しからんと相考へ候。 三三

母親の乳に合せて用ゆべきものゝ事

問。母親の乳に加へて、何か食べさせても宜しきものに候や。

答。若し、母親の乳にて十分に候ハヾ、決して何も與ふるに及バず、赤子にハ、其親の乳に越したるはどの好き食物とてハ、外に之れなきものにハ候へども、万一其母が身躰弱ハくして、十分の乳も出でざるようの節ハ、即ち牛乳に温湯と砂糖とを合せたるもの（前に掲く）をバ、御用ひありても苦しからず、然し、産後六七ヶ月に至るまでハ決して

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

六七ケ月目より用ゆべき食料の事

第一法

て此外のものを食べさせざるように致さるべし。

問。然らバ、六七月立ちたる後は、何如なるものを用ゆればバ、宜しく候ハん、序でに承ハり度候。

答。それは、眞に色々の法が之れあるものに候が、左に其中の尤も行れ易くして、効能多き類を申上ぐべし。

第一。は、麵包の屑を、二時間ほどコゲ付かぬ樣にして水煮にして、之に棒砂糖少々（尤も通じの惡き節は黒砂糖天紅の類を用ゆ）を加へたるものなり、但し之に新鮮の牛乳少々を加ふるを善しとす、且つ子供が月を經るに隨つて、この牛乳の量を增し段々に水の量を減ずるようにして、只たゞ麵包を煮るときに必要なるほど丈の水を入れ、其上

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

へ温めたる牛乳を段々に注ぎかくべし、尤も母親の乳を飲み居る間は牛乳を合せ飲むとを嫌ふ子供もあるべし、斯る時には、全く牛乳を用ゆるを止めて其乳離れしたるのちよりして、右に述ぶるようなる料理方に致すべし。(之より下に説く所の色々の料理法にも、牛乳を加ふるとあれども、右に云ふ如き差支への時ハ、無論之を用ひずして可なり)。

第二法

第二は、麺包を薄く切りて、鍋の上に幷らべ冷水を入れたるものを、其上に置て、之を冷しながら、麺包を焼くべし、斯して、二時間を經たらバ取出し、フホークにて善く叩き砕き、之に例の如く温湯と砂糖とを合せたるものを加へ、甘

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

くするなり

第三法

第三は、右に云ふ如き食物が、子供に合ハぬときに用ゆるものにて、即ち葛、カ、タクリの類なり。

第四法

第四は、ロッブビスケットと申し、舶來の上等麵包なり、之は、小麥の粉に、色々の調味を付て製したる極上のビスケットゆへ、子供に用ひて宜しきものなり。

第五法

第五は、小麥の粉一英斤ほどを、キレにて包み固く縛り、之を鍋一杯に入れたる水の内にて、四五時間煮たるのち、取出し、キレに接したる外面を削り去り、內部に乾きたるように爲つて固まり居る粉をバ碎きて用ゆるなり。

第六法

第六は、麵包を好く固めて、之を火より少々離して乾かし、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

能く干たるをバ、臼にて摩り、粉に砕きて、篩を通し後ち之を文火の上に置たる鍋に入れて、少々色づく、迄焼きたるをバ、例の如く温湯と砂糖とを加へて、料理したるものなり。

此外、尚ほいろ〳〵の料理方御座候へども、最早紙面の都合も有之に付次回に於て、更めて御答いたすとをすべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

案内狀の認め方の事第一

案内狀の認め方の事第二

○西洋女禮　（第三回）

第五章　婦人案内の事

婦人を案内する書狀、及び、之に答ふるの書狀は、何れも第三の人（即ち案内者にもあらず、亦案内さるゝ、人にもあらざる、他人を指すが、甚だ淡泊簡固に認るを禮とす、古へは、其書の初めに、時下慶祥云々より先方への慰め言葉を數多記したるなれども、今まは之を略するを常とす。

但し、當今は亦た、案内者の家の細君のみの名を以て、案内するの禮あり、其狀の文言は、

Mrs. Iwamoto requests the honor of Sir Yoshiharu and Lady kame's company at

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

an evening party, on Monday, 11th of June.

巖本夫人は、來る六月十四日月曜日夜會に於て、善治君及龜孃の來會を辱ふせんことを請ふ、

案內狀の認め方の事第三

或は亦た、案內の文言を印刷したる用紙を買ひ、之に、先方の名前を記入して、送るを禮とするもあり、皆な便宜に隨ふものなり。

案內狀への答書の事

案內狀への答書の式は、左の如くなるべし。

Mr. Inouye has much pleasure in accepting Mrs. Iwamoto's polite invitation for Monday evening, June the 11th instant.

井上生は、來る十一日月曜日夜會の爲に、巖本夫人の信切ある招待を受たることを、厚く答謝す。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

案内狀及答書用紙の事

案内狀及び答書は、何れも小板の西洋紙に認め、之を通常の狀袋に納て送るべし。

第六章　婦人書狀の事

右、第二章、及、第五章に參看して、考ふる所あるべし。

書狀用紙及狀袋の事

音信の書狀に、美麗に過たる用紙を用ゆるは、財産に富み且つ華飾を好む所の貴婦人に限るとにて、而も其朋友若くは同輩に與ふる時の外は、決して許すべからず、但し、普通用事の手紙は、之を淡泊なる用紙に認め、糊付の狀袋に入るゝか、又は赤き蠟を以て封ずべし。

日付及住所の事

書狀には、凡そ其の事務用と交際用たるとを問ハず、必ず、日付と住所書きとを落とすべからず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

外國人へ送る書狀の事

外國の方々へ、自身にて書狀を送るときは、最初に、"Sir"(足下) "Madam"(令夫人)など記し、末に至て、"I have the honour to be your very obedient servant."(余は足下の尤も從順なる下部たるを得るの名譽を有す)と認むべし、之は、何か己を屈するやに思ふ人もあれども、既に禮文と定り居る以上は、其樣に認るが、即ち謙遜中の名譽ありと云ふべし。

宛名の事

書狀の末に至り、自分の名前を記したらバ、之より僅か離れたる紙の左偶に、先方への宛名、即ち"Lady Ishii"又は"Yoshiharu Iwamoto, Esquire."など書べし。

エスコイアの文字の事

右に示せる、エスコイア(Esquire)なる文字は、悉く認るを禮

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

長上目下同輩よ山て文に長短ある事

とす、時々畧して、Esq. とのみ書くものあれども、穩當ならず。

凡そ、長上又は目下へ寄する手紙は、成るべく辭を少くして、文を短くすべし、長上をして長文を讀まするは、不禮なり、目下へ長々しく申送るは、親しみ過ぐるの嫌あらん、故に、細々と認るは、則ち、同輩との打明け文に限るものなり。

商人へ送る書狀の事

商人へ書狀を送るときは、最初に、先方の名を記すべし、例へば、

"Mr. Yoshiharu,—Sir." (善治君足下) 而して、斯く認めたるときは、末に至て、亦た左の如く記るすべし、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

度々出合て親しみなき人への書状の事

親しみ深き人への書状の事

答書を速にする事

郵便税の事

"Sir, yours truly."　（謹言）

宴會などにて度々出會ひながら、未だ左程に親しまざる人へ向つて、書を寄するときは、初に、"Dear Madam," と記るし、末に至て、"I am, dear Madam, yours very truly" と書くべし。

亦た、既に親しみ深き人へ向ひての状に初め "Dear Madam" と記したらバ、末に於て、"I am, My dear Madam, yours very faithfully" 又は "Yours very sincerely" と認むべし。

凡そ、書状への答書を尤も速にするは、即ち尤も禮あるものなり。

凡そ、何如なる書状と云へども、其郵税を當方にて拂ひ置くとの禮あるは、勿論なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第七章　婦人散歩の事

散歩の際男子の腕に倚る事

英國にては、散歩の際、婦人同行の男子の腕に倚るを得べし、然れども、米國及び歐洲の大陸諸國にては、婦人は、其夫、愛人、近しき親戚等の外の男子の腕に伴はるゝを許さず。

散歩の際買たるものを男子へ托する事

婦人が男子と同行散歩の際、何物をか買入たる時には、之を男子に托して、持運びを乞ふこと差支なし、然れども、二以上の物品を之に托するは、宜からず。

兩婦人が一人の腕に倚る事

婦人兩人が、一男子の双の腕に、交も携へらるゝは不可なしと雖も、一婦人にして、左右の手を兩男子に携へらるゝは宜しからず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同行の際婦人が休息の事

婦人男子と共に、公園若くは博物館の如き場所へ同行したる時、もし婦人疲勞して歩行に難まバ、男子ハ之が爲に座を見出して暫らく休息せしむるの義務あり、但し、其際、男子は立ながら之を待つべきが故に、婦人は成べく速に立ち上りて、餘り久しく男子の好意を貪るべからず。

腰を屈むる事

婦人もし知己の男子に出會せバ、婦人より先づ腰を屈めて、之に禮すべし。

出會したる時の事

婦人方もし、街道、博物館內、或は、公園の如き場所にて、知人に出會したらバ、餘り聲ハ高に、知人の名を呼ぶべからず、亦た車內にて知人に出會したるとき、双方相ひ席を

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

列するにあらずバ、隔てながらに談話などすべからず。

第八章　婦人裝飾の事（上）

凡そ、服裝を宜くせんとには、啻に、金に奢り姿に誇るとも、未だ及バず、先づ、善き考、味、及び美術上の覺悟なくんバ不可なり、蓋し、服裝の事ハ、美術上の一個の藝能にして、何人を問ハず、特に婦人方にとりては、最も大切なる心得とす、抑も、公會交際の場に出づるものには、種々の必要なる用心あり、先づ如何なる樣にして室に入るべきか、何如やうにして挨拶を爲すべきや、又何如なる風に衣服を着くべきや、以上三の事は、その中にも特更に大切なるものなり、而して、服裝の事は、此の中尤も人の目

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

につき易きが故に、尚更に之を緊要の教とハせり。

時刻に由て服装を異にする事

先づ、適當の服裝を爲すには、其時の時刻を考ふるを要す、朝に於て、餘り立派なる服を着くるは不可なり、夕に於て、朝の服を裝ふも亦失禮なり。

朝服、車行、夜會の服の事

淡泊にして價易き衣服は、朝服に適す。黑色の絹布は、散歩及び車上の逍遥に適す。立派にして且つ透明なる風の衣服は、宴會及び夜會に適す。

朝服の事

故に、朝服には、品質素にして、色上下一對にジミたるものを宜しとす、之に、カラカフともに純白のリンネル製のものを用ひバ、甚だ可なり。

街道散歩の服の事

街道を散歩するときは、餘り奢りたる品、及び、餘り華美な

三六

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

る物の衣服を着す可らず、路人の注目を引いて、たゞ卑しみを受る計りならん。

乘車の服の事

車に乗るときは、自由に華美なる服を着するとも妨なかるべし。

夜會の服の事

夜會に用ゆる衣服は、其時々の流行あれバ茲に一定の教を述ぶると難し。

色合の理の事

服裝色合の適不適は、人に由りて異り、固より定むべきものにあらざれども、今假りに其大躰を擧れバ、左の如し。

立派なる色合の事

立派なる色合は、茶褐色の容貌にして、髪の毛の美き人々に適すべし。

ジミたる色合の事

ジミたる色合は、キャシャにして、脆ろげなる風の美人に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

白色の事

適すべし。
若き婦人に適する最上の色合は、蓋し、白に越したるはなかるべし。

夜會の服の事

夜會踏舞の際は、絹服を用ゆべからず、但し、既に婚したる婦人は、其際、飾り模様の絹服を着くるとも差支なし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

月經に注意する事

月經の止みたる時の事

○女子生理（第三回）

第二章　懐妊の事

婦人の月經は、前章に述べたる如く、甚だ大なる關係を有し、女子一身の健康と疾病とは、多く此の一事に由て分るゝが如きものゆへ、之に注意して、平素用心を爲すこと大切なり。

然るに月經の止みたるとき、之は例の如く躰の内に何か不都合を生じて、病を引起すものなりや、或は、又た胎兒を宿して幸福の源を作るものなりや、其の何れよりして斯く不順の巡りとなれるやを判別すること、亦甚だ大切なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

月經の止みたる所以を考ふる事

由て此判別を爲さんとには先づ其婦人の年齡を考へ、次に月經の止みたる前後の種々の徴候を考へ、次に其婦人近頃の月經を考へ、次に其婦人の身躰肥たりや否やを考へ、次に其身躰總躰の健康の模樣を考へ、更に亦た何か、是迄におき下り物などありや否や等を考へ合せバ、遐くすべくもあらざるべし。

年齡に付て考ふる事

第一、其婦人の年齡の事に付て考ふるには、先づ、その人四十三才なりや否やと問ふべし、凡そ四十三才の後にも、時としては懷姙するものも固より之れあれども、如此きは、先づ例外にして普通にあるべきにあらず、故に、四十三才以后の婦人ならバ、則ち先づ懷姙にあらずと認る

四〇

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

方至當なるべし。

徵候に付て考ふる事

第〇二、月經の止みたる頃、如何なる徵候ありしやと云へることに付ては、甚だ多き心得方あり、之は後に至りて精密に記載すべし、其處に於て述ぶる如きシルシあれバ、則ち、懷姙非懷姙の事を明白に承知するを得べし。

近頃の月經に付て考ふる事

第〇三、其婦人近頃の月經に付て考ふるとは、茲に所云る全く月經の止むに至れる前の頃ろ、月經は規則正しく巡りありたりや、亦た下り物の分量も大抵定り居しや、或は月々時々に變ハりありしや否や等を考へて、當今月經の止みたるは、則ち例の病ならん、或は、最早全く月經の止むべき年齡となりしならんなど、診斷するものな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

躰の肥たるとに付て考る事

り。

第四、其婦人の身躰肥たりや否やと云へるとにつきては、凡そ、婦人の時期變代して、最早老年の境界に入りたるときは、急に太とりて、一の骨をも見ざるほどに肥え、頬は二重になりて、所云る牛酪を見るが如く相成るものゆへ、月經の止みたる時にいかに如此く肥太せバ、即ち、これ最早老人となりたるものと知るべし、然るに、之に反し、懐姙したる婦人、特に晩年に至りて身持となりたるものは、其腹部を除くの外は、非常に瘦せ、且つ薄うなり、特に其の鼻及び頬は、(全躰とともに)何となく尖りたる如くに見ゆるものなれバ、前に述べたるものとは判

四二

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

其折の健康に付て考ふる事

然としたる相違あるとを知るべし。

第。五。に、其時婦人全躰の健康何如あらんと云へるに付ては醫師に診斷を乞ふとき、特に必要の事件なり、尙は、其際惡臭の下り物、若くは、白血までを下すときは、之れ固より子宮内の病氣にして、大抵は懷姙にあらず、而して、此の如き下り物を出すは、彼の婦人の時期の變代と云へる時(卽ち懷姙時代より老年の時期に移る時を云ふ)に於て、更に太甚しきものなれバ、尤も用心して養生すべし、惣じて斯る時に當り、早く醫師の診察を請ひ、速に療治せざれば、不側の害を起すとあらん。

以上述べたる婦人の時期の變代の際は、一に稱して女子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一身危急存亡の時節と云へるほどなれバ、尤も用心して、其躰を保護すべし、先づ熟練したる醫師の助言を乞ひて攝生の道を十分に行ふべし。

蓋し、婦人懐姙期三十年を過して、其齢もはや四十四五年となり、或は時として四十八才となれりし比に至り、則ち、右に云ふ所の時期の變代あるべし、而して、此時節の到來するまでには、其躰内に種々の異事ありと知るべし、先づ、月經次第に不順になり、或は、月經あるの前後に身躰衰弱し、或は時として甚だ多量の月經水を下し、或は時として其の甚だ少量を下し、又時としてはメグり物の色甚だ薄く、或は全く無色、或は又た切り傷より

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

出る血の如く純赤、或は又時としてインキの如く黒く、又時として糖蜜の如く濃厚なることあるものなり。

右の例外の事

但し、右に述ぶる所の變化をも見ず、知らざる間に偶と變化して、以後全く月經を見ず、即ち不識の間に老年期に移るものも、亦た往々にして之れあることなり。

同上躰内の苦痛の事

然れども、大抵は、前に述ぶる如く、月經の上に於て變化を見たる上に、尚ほ時々所々に痛みを覺ゆることあるべし、即ち、今日は此所いたみ、明日は彼所苦しからん、特に、亦た頭痛を覺へ、(但し此時の頭痛は、光を見、亦は、響を聽ても、別段頭に關係なし)神經鋭くなり、心臟皷動し、顏及び頭のあたりの急に赤くなることあるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同前の事

其上、亦た、胸の邊り脹れ痛み、何か腫物にても出で來たるかと思はるゝやうの感覺あらん、又腹の左右とき〴〵交る〴〵痛み、腹内に風氣を生じたるように覺へて、不快甚しく、時々ヒステリックを起して笑ひ泣くようの事あらん。

同前鼻血の事

又た、此際鼻血の出るとあらん、特に前に月經ありし頃の日取となりて、更に多く出るとあり、之は自然の妙工にて、甘く取扱はるゝとゆへ、決して心配に及はされども、若し餘りに多く出血せバ則ち之を止むべし。

同前出來物の事

此頃には、亦た皮膚に種々の出來物を生ずべし、特に多きは、顔の上なり、但し此の小疹は、能く取り扱はゞ、決して

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

時期變代の際注意の事

肥太を止めて時期變代を中止する事

アザを殘さゞるに付き心配するに及バず。

以上いろ〳〵の變化は、即ち前に述べたる婦人時期の變代の折に起るところのものなり、其際、速に醫師に就て、治療の法をきゝ、用心して攝生せバ、斯る病も乍ちにして止むのみか、其後一生は、非常の健全にてあるを得べし、然るに此際もし不用心して攝生せずんば、之よりして、多病の人となるべし。

四十に達せざる、尚は年ざかりの細君にして、急に肥太せらるゝとあり、之は、即ち、通常よりも早く、例の時期變代を生じ、最早時ならず非懷姙の老年社會へ行渡らんとすることあるべし、甚だ氣の毒の事なり、故に、かゝる時

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

は、能く運動し、成べく家外に出歩るくようにして、身躰を働かせなバ、則ち彼の肥とりを中途にて止め、所云る時期の變代を、暫時猶豫するの効能あるべし、之と同様の理合にて、凡そ奢り暮らしながら、運動もせず働きもせざる婦人は、甚だ早く老年期に達して、最早や懐姙しがたきものと爲れども、平生よく勞働するところの妻は四十八才の頃に至るまで、尚よく懐姙するを得るものと云へり。

（以上は、即ち、懐姙に非るものを懐姙と見誤ることあるを慮りて、説明したるものあり、故に、之より下に、専ら、姙娠に關する心得方を敎ゆべし。）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

家内理學を論ずる事

理學と云ふ事

○家内理學（第一回）

小引

本巻より、家内理學と云へる一科を置きて、續々講述すべし、之は、家内の用務に就きて、心得置くべき理學を云へるものにて、言ひ換ゆれば、實際手近かに入用なる理學と申すに均しきとなり。

抑も、理學とは、目に見へ手にて觸れ得べき、凡百の物品に付て、其成立性質より、効用用方に至るまでを、研究する學文にて、專ら文學に對して云へるものなり、左れば、草木の事を論ずる植物學、動物即ち生物の事を研究する動物學、若くは金や石の如きものを彼此と穿鑿する金石學、天に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

理學の大切なる事

在る月日星の運行變化なんどを取調る天文學、其外、化學、物理學、地質學、礦山學等夥多あるとなれども、之を惣稱すれば、則ち、文學に對する一の理學と呼ぶことを得るものとなれり。

然るに、此理學と云へるものは、人生の上に甚だ大切の關係あるものにて、人の强弱生死は固より、一家の興廢、一國の存亡、盛衰等こと〴〵く之に由て分るゝと云ふも宜しきものなり、今ま、我國と西洋諸國との相違は、何處にありや、彼國は何故に那の如く富み榮えて、我日本は斯の如く貧乏なりやと問ふ人あらんに、之には固より種々雜多の元因あり、遠くより來れるもあり、亦近頃より生じたるも

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

理學の行ハるゝ事

あらんと雖も、其內に於て、先づ尤も大なる元因の一となるれるものハ、即ち、彼國にハ理學盛んに行れて、我國には其行ハるゝと甚だ乏しきが故なりと云ふを得べし。

通信女學理學一斑の事

之は何故と云ふに、鐵道の縱横に走り、電信の西東に通じ、車の南北に通よひ、機械力の上下四方に行れて、人はたゞ一徒手一投足の勞をもて、能く數百千人に相當するほどの仕事を爲し、以て之に相應する夥多の利益を受ると云ふもの、一に皆な理學の賜にあらざるはなし。而して、此の如き理學彼地に盛んに行れて、我國に行れざるは、甚だ歎くべきとにあらずや。

然るに、我邦人は、多年の習慣に染りて、特更ら理學の志想

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

理學中の實用に近きもの〻事

に乏しく、之を研窮せんとするの好みもなければ、亦た之を必要なりと感ずるの力も薄し、甚だ悲むべきものと考ふるが故に、通信女學には、先づ普通一般の理學を簡易に説明して、一には、理學の志想を婦人方の中に養ひ、以て國民に斯の學を好むの習を得せしめ、二ツには、人間一個をして是非とも承知せざるべからざるの理屈を教へ、尚は一家を修め、子弟を育つるの覺悟をも婦人方に講述せんと企て〻、扨ては、理學一斑と云へる科目を設けたることなり。

然るに、此の理學一斑の科中に於て、前に數へ擧たる、植物學、動物學、天文學、地質學等其外あまたある所の諸の理學

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

家內理學講述の事

類を、次々に講述するに先ち理學を一家內の用務に當てはめて效能あるの箇條々々を說明せば、則ち、婦人方が斯學を好ませらるゝの志を養ふに於て、非常の力あるべしと信ぜり。

蓋し、諸〱の理學は、實際西洋の文明の基礎となりて、國家の富を起す元因となれりと聞ても、今ま、女たらんものが、草木の生立の工合、生き物の生活の模様、又は、星の運行の次第、地質の層なり樣などを學びたりとて、差當り手近に何の效用もあらざるべしと考ふる人もあらん、斯ては、切角貴重なる理學を說いて、反つて之を輕ろしめまむるの憾万なきにあらずと覺へたるまゝ、茲に先づ、家內理學の一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

本科講述順序の事

科を講述するの必用を感じぬ。

此故に、本科には、先づ温熱の事を説き、次に、光明の事を論じ、次に、空氣の事を講じ、次に、食物の事を述べ、最後に至りて、清淨の事を語るべし、其間には、時々六かしき學術上の議論もあるべく、亦時としては、片苦しき文辭をも書き現はすとあらんなれども、要するに、一家内家族の衞生健康の爲に心得べき箇條を教へんとの主旨にて、申すとなれば、彼の諸の理學類を、夫々一々に講述する如き、原理の論辨はあるまじく、必竟は、極て手近き事に陥り行くべきものなり。

原本用書の事

斯て、此科の講述には、米人學士アドワードヨウマン氏が、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

其令妹なんどの助を得て、多年の盡力により編輯ありたる著書（即ち家内理學必携と題し千八百八十三年米國にて出版したるものなり）を元として、折々は吾人の考を加へ、亦た、他の書類をも引用して、成べく分り易く説明すべし。

○第一篇（温熱の事）目次

前にも述べたる如く、本科は、惣躰を五篇に分ちて講述すべし、由て、今ま先づ第一篇の目次を左に掲ぐべし

第一章　地球上温熱の出處及び分れ方の事

第二章　温熱と生物との關係の事

第三章　温熱を測る事

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第四章　温熱反射の事

第五章　温熱を導く事

第六章　動躰が温熱を運ぶ事

等七章　温熱の性質並に効驗の事

第八章　温熱の生理上に於ける効驗の事

第九章　人工温熱並に薪炭の事

第十章　空氣の流動並に烟出の事

第十一章　温熱を得る道具類の事

右各章を順次に説きて後ち次の篇へ移るべし。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

暑中無休、延刊の理由並に次回講義錄の事

○問答叢話

問。此暑中も、引つゞき講義錄御發行にて、御休の計畫は之れなく候や。

答。　別段休業の心得なきのみか、實は、次號より枚數を加へたしとも存じ居候、去る七月は、女學雜誌發行停止の爲め、一社出版物の法律に隨ひ、通信女學をも印刷致さず居候處ろ、右停止意外に早く解停の恩命を蒙り、女學雜誌擴張の計畫急に差起りたる爲め、並に、編者の一家族に引續きて不得止事故出來し、八月分の講義錄編輯斯く延引致候と、眞に申分なけれども、編者の微志は、何分此講義錄を更に盛んに致さず候ては、兎ても、現今所々にて續々此雜

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

形に倣ひ出版さるゝ如きものにて、滿足すべからざるよう認定せしとなり、故に次回よりは、恐く枚數增加の運に至るべく、暑中休刊の都合は、無御座候へども避暑の事に付ては、女學雜誌上に少しか論じ置たる廉も有之候に付、左に揭げて、一應御覽に入るべし、編者の望む所は、細君方が、此の暑中、靜閑なる土地に熱を避けて、通信女學女學雜誌其外女子に關係ある書類を、自由に御讀ありたしとこそ望む所なり。

避暑の遊を勸る事

○避暑の遊を勸む

此頃は暑さ殊の外强うなり府下にても人家稠密の內に住ふ者は分けて其熱に堪がたく一日うつら／＼として何事もせず暮す如し彼の空氣淸く風すゞしく樹陰靑々として草も靜かなる邊に遊んで心の鬱を散するに適當の時とは實に此の頃の事にてあるべ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

し。凡そ一日には夜と晝とあり一年には冬と夏とありて晝の間だ働たるものは夜必ず休み春榮へたるものは冬必らず藏るゝとにて是非勞と休みとが順番に參らんければならぬものである。故に年中あくせくとして家業なり學問なりに勉強を爲されたる方々はどうか此の苦しき熱さの時節を利用して何處か涼しひ樂しひ塲所に遊んで一つには疲れ切つたる躰を息め又一つには他日大に働かんが爲に先づ其力を養はれたきものである。然るに凡そ遊と云へる文字は甚だ聞苦しひ者で誰にも何か榮耀がましく思はるゝよりして之を試る方々は何となう厭慮さるゝやの趣あれども之は必竟遊と云へるものに甚だ大切の効能あるとを御存知ないよりの誤りである。今ま小學校に參つて見るに課業の時間々々に十分程の休がある其時の鐘が鳴ると小供等は喜び勇んで運動塲に駈け出で勝手氣儘の事をして遊ぶとあるが抑も此遊は何の譯に必要でありませうや若し遊と云へるとは甚だ聞へが宜くないと申して万一之を止て見ませうならば小供は乍ち課業に厭き果て半日にして全く疲れ切るとあらん斯て稽古も出來ません躰も痛んで大したる損害を起すとであらう故に時間々々の遊は外見に無益の樣なものであつて其實大層に必要なるものである。かの亦た夏休と云つ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て大抵八月九月の頃二ヶ月ほども休むことが此頃は何處の學校にも行はるゝこととなるが之も亦た恰度前申したるに均しひものである眞に勉强盛りの少年子弟には一日の損をさせても一生の上に莫大の損となることゆへ決して無用の遊などを致さすまじきものと定て居る處なるに斯く何處に於ても久しひ休を爲さするは實に夫れ丈の効能がなくては誰も敢て爲すものではない然るに我國初め西洋諸國にても之等の休を甚だ大切と致し如何なる學校にても斯る休息を爲させない處のないのみか特に西洋の大學校に於ては一年の内半年は大抵休だと申しても宜しい程であるが之れ必竟みなこの休が平生の勉强に大いなる關係を及ぼし其効能非常なることを承知するからの譯にてあるなり」偖て斯くも勉强ざかりの書生に休むと申すことが怪しうないことにてあらば今日事業に勉强して居らるゝ最早老朽に近づかんとする人々に取てのみは何故聞へが宜うあるまじきや甚だ聞取りにくきことにてはなきか思ふに若しも此人々がかの少年子弟と同樣に勉强の時は心限り勉强して扨て偖て年に幾十日と云へる間の休息を爲したるならば定て其身躰も丈夫になり其精神も活潑になりて大なる利益の在ることならん三四十日の休息は目前にこそ大層の損亡の樣に見ゆるとも之を大きく勘

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

定して見たらんには其益あると確實にして決して疑ふべきものではない。故に彼の利を見るに賢こき西洋の商人等も一週間の一日即ち日曜日を安息日として商賣を休み何事も致さない又年に一二ケ月は夏休と申して閑靜の地に避暑し身躰を養ひ年中の勞を慰ることである。故に休、遊、安息、など云へる事の効能を知らさる人は即ち小學校の運動時間を無益のように思ふものと同様の誤に陷りたるものである。

且又此の休と云へるものは必ずしも何事もせずブラリとして居ると云ふものではない即ち小學校にては小供が好み〳〵の運動をなし大學校の書生ならば所々に遊歴など致して經驗を積み或は草木魚介を探りて博物の智識を増すやうのことを致す必竟は爲し續けたる仕事を中止して心を他の方角に轉じ暫く氣を息むると申すことが大切である例へば何方でも一の事を引續て久しく爲さるならば必ず厭が來てホト〳〵忌になりませう然るに若し之を忍んで尚ほ續くるならば頭は痛む氣は屈する何か躰内にムラ〳〵としたる雲を生じたる樣の心地して甚だ疲勞するのみか其仕事は少しも捗取らぬものであらうが然し若し之を善い程に中止し一寸香茶を飲むとか又は庭を散歩して草木を眺るとか致して暫時氣を轉じて偖て又前の事を致さるゝならば精神は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

常も活々として仕事は大層に進歩するものであらう今ま吾人が時々に休、遊、安息をどするとを主張するは即ち亦此變化と云へるとを為さうとの主意よりして申すとである。然れば事業を為さるゝ人々が例へば夏休三四十日の間閑靜なる地に行て遊ばるゝとしても何も一日悉く休まねば其効能が無いと申すとはない既に變りたる地へ行たと云ふ事、此迄の仕事を暫時中止したと云ふ事、四方の景色が變り往來する人々が違つたと云ふと計りで早や莫大の効能がある、故に避暑の地に行て相應の仕事を為すも又年中何か仕事を貯へて置て偖て此時に之を為すと申すやうに致されても身に受る所の利益は既に莫大のものである。

扨て右に申す常々の有様より變化したる事を致すと云へるは分けて女方にとりて大切の事なるが故に其効能の及ぶとも亦特に女方に多きものである之を何故と云ふに凡そ男子は日々の仕事の間に多少の變化と云へるとがあつて或は車を飛ばせ或は馬に跨り或は急に滊車に打乗つて横濱の取引に出向き又は急かに滊船に乘じて京大坂の用事を辨ずるともある左なきだに日々世間にて無數の他人に出で會ひ談笑の間に愉快を覺ゆるとが必ずある其仕事の活潑なるに隨て變化も亦甚だ多いものであるが

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

彼の細君娘孃方に至ては大抵全く此樣の事がない先づ一家を脩むるとか又は母を助るとか申して日々同樣の事計り致すとである朝起て夜臥するまでフキ掃除より裁縫洗濯に至るまで殆んど一轍の仕事を日々繰り反へすのみか出であふ所の人も毎日決して變はりがない云はゞ女方の爲さるゝとは年中殆んど一調子の音を發する音樂の如きものなりと申しても宜しひ固より當今の婦人方は或は時々の宴會にも出でらるゝ又時々の散歩をも爲さるゝ決して昔日の比ひではないが男子の人々と比べて見て何れが多く仕事の變化に出あはるゝやと云はば無論女方は男子に及ばんものである然れば其時々の休息を要して彼の景色を變化すると云ふとの必要は亦それ丈に女方に多く入用のものである。然るに近來避暑の効能を知つて遊びに出向かるゝ方々年々に多くあるやうに覺ゆるが中にも夫のみ獨り參つて細君等は矢張り家に留守番をせらるゝと云ふが多くある如し眞に譯の分らぬとにてドウカ其樣なる不心得は向後全廢し可成夫婦同行さるゝように致したいものである左すれば啻に双方平生の疲を慰めて前に申したるようの効能がある計りではない或は樹陰蒼々たる邊に手を携へて散歩し或は連山起伏し明河布を渡せるようなる景色を望んで共に來し方を語りあ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

どせば互ひの愛情も無限の點に達し尙更に非常の愉快を覺ゆることにてあるべし。
偖て休遊など云へる者に斯く効能が多いとあらば此の炎熱に苦しみ乍ら府下に留るに及ばず何卒避暑の計を立てゝ早く遠行ありたきものなり經濟上の事を申ても素と湯治場に榮燿なる暮し方をすることさへ思はず片田舍に茅屋を借り受て暫時之に住ふとだに致さば決して多くの入費は入らぬものなり故に凡そ平生中等以上の生計を爲さるゝ人々は何卒多く此の避暑の遊を試みらるゝやうに致したし若又一家擧つて參られぬとならば此時こそ夫たるものが家に留守して細君や娘方をバ出向かせ年中家に留守して鬱し易かりし心根をバ慰めしむべし是れ切めてその年中の勞に報ゆると云へる男子の覺悟なるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○社告

通信女學講義錄發行の儀毎月十五日と定め日曜日の節は其翌日發兌の事に改め申候に付自今右定日に出版可致候

右講義錄は尋常の雜誌類とは相違いたし初号より引續て購讀を請はざれは効能なき儀に付隨て印刷部數をも讀者の數に應じて相定め申すに付総て前金御拂込なき間は其注文を印刷部數の中に入れず配達致べき儀にも無之候に付凡て注文は必ず前金を併て送致あり度候

因て右講義錄第一卷の代價御拂込の方にて引續き購讀あるべき向ハ至急代金前送あり度候一冊は定價二十錢にして郵送税を要せず半年分前金ハ壹圓に候

女學に關係の書類にて東京書肆の出版に係る分ハ注文次第取次き郵送可致候因て右御委賴の向は書名に定價の金を添へて送附ありたく郵送賃は大抵其内にて辨ずるやうに相斗らひ可申過分に入用の節ハ改めて其送附方を御報可致候

●女學雜誌　每週一回 各土曜日出版

此雜誌は婦女子の心得となるべき事柄を一切書盡したるものにて社説にハ當今の時勢に於て女の學び置くべき事件を信切に教喩し又有觸れたる弊害ハ厭慮なく之を諫め當に務むべき女の責任は綿密に之を勸め專ら女流を開化に導くの案內を示し論説にハ我國にて有名なる學者新聞記者等の女に關する論話を請ひ又外國の書籍雜誌等に出でたる有益の文章は抄譯して相掲げ特に女學に關し有名の人々が演説さる、時は必ず之を速記文にて寫し取り載するに付假令ひ之を傍聽せざる人々にも紙面にて座ろに之を耳にするの愉快を覺へしめ叢話にはすべて女のたしなみとすべき事柄を最も平易に談話するとせず故に母親が子を育つる心得、妻が夫に仕うるの道、娘が學校にて勉强する方法等を初として家內經濟、家內衞生、等に大切なる教又ハ縫針、洗濯、煮燒、料理の案內若くハ交際とりなしの禮式、男女つきあいの用心讀書運動の要目等は皆

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

な此處に於て懇ろに敎示すべし次に批評にハ時々に出版する女學に關係の新書の大意を示し且つ之ハ讀て宜きもの之は惡きもれと一々に評して讀む人の便利を計り佳傳よハ古今東西にて有名なる婦人ハ固より凡ろ貞操孝烈にして女の鏡とすべき女流れ傳記ハ皆甚だ高尙の文に書つゞり尙ほ面白くして有益なる女れ小說を一つ宛副へ專ら實際よ女の手本を現はし寄書には各女學校生徒の文章及び有名なる女流の人々の投書を集め尙折々は編者の評をも附し雜報にハ內外に起る女學女事の景況を一切取集めて座がら滿天下れ女の景況を示し讀者をして爲に勵み爲に喜ゐび時勢れ赴く所を容易に知らしむるの工夫を爲し其外珊瑚の玉と稱する女學上れ金言を每號五つ六つ宛相載せ西洋の有名なる學者詩人が詠出さる詩又は文章の中尤も面白き英語の辭句をあちこちに挿入し每語高尙細密なる圖書を入れ折々さ各女學會の景況を特別廣告として細かに報告し尙ほ女論に關する點取文中優等なるものを附錄として載せ文章はすべて平易優雅にして不淸潔れ文字ハ一句だも紙面に登さゞる等を此雜誌編輯の規則となす

一册五錢郵稅一錢府內無稅● 十册前金郵稅共五十八錢

田口卯吉君結髪沿革附錄○和崎義路君校○巖本善治君跋　渡邊鼎君著

束髪案內

美製小本八十頁細圖入
定價十五錢郵稅四錢也

當今束髪流行れ折柄其結び方不案內れ婦人尠からず此書は日本婦人に適する束髪二十餘種の結び方を丁寧よ敎へ一々細圖を附して信切に案內すれば何如なる僻遠れ地に在りて束髪れ風を知らざる人々も之に依て容易に自ら試るを得べし特に田口卯吉君の論文束髪會の規則其外をも添へたれば結髪改良に志ある人々は宜く一讀あるべし
○但本社出版れ書籍は定價ゟ一錢も割引不致候事

東京新橋日吉町八番地　女學雜誌社

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐

東京共遊舍印行

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY